



品川区議会「予算議会」



本会議にて代表質問

首都直下大震災 介護が必要な方・障害がある方への 避難生活支援へ、個別計画の策定が実現

震災の教訓を

品川区防災計画に

今年には阪神淡路大震災から26年。東日本大震災から10年の年となります。

2月中旬より始まった、第一回定例会（予算議会）にて、なかつか亮区議が本会議にて代表質問を行い、防災対策の充実等を取り上げました。

特に避難所環境の改善は、介護が必要な方や障害がある等にとって生死を分ける重大な課題です。発災直後の被害から命が守れても、

困難な避難生活から体調を崩し命を落とす震災関連死は深刻な問題だからです。

これまで品川区は高齢者や障害者など避難行動要支援者への支援について町会など近隣住民に対応を求めてきました。この度、品川区が責任をもって対象者の個別計画を作ることに変更されました。

まずは緊急度の高い方とモデルケースの作成ですが重要な前進です。一刻も早く、そして着実な計画策定を引き続き求めていきます。

災害時「体育館に雑魚寝」 は、一刻も早く改善を

大地震で自宅を失った場合、学校体育館等※での避難生活が想定されていますが、その環境はいままだに「体育館に毛布一枚で雑魚寝」という状況が各地で続いています。

避難所環境の改善へ、まずは介護が必要な方や障害がある方等に対する緊急対応を改めて品川区に求めました。

区は「困難な方は体育館ではなく、教室での避難生活を確保したい。簡易ベッドや間仕切りも活用したい」と答弁しましたが、まだ教室の指定が決まっていない学校避難所もあり、計画の具体化が急がれます。

また、体育館において

「間仕切りやテントの活用を」と提案しましたが、区は「備蓄にその考えはない」と拒否しました。

その理由を区は発災後の外部からの搬入を想定していますが具体的な計画は策定されていません。

計画や準備が無ければ混乱が起きるのは当然。

今後とも避難環境の改善に力を注ぎます。

安全な住宅を

避難所環境の改善と同時に大前提として安全な住宅が必要です。

住宅の耐震化や立て替え、家具転倒防止などの徹底も急がれます。震災から住民の命を守る対策を今後とも頑張ります。

なかつか亮

※学校での避難生活が困難な方はシルバーセンター等の2次避難所及び特養ホームなど福祉避難所が計画されていますが、訓練や災害時の運営などに問題点が多くあり、引き続き改善を求めています。

米ユナイテッド航空事故の 原因究明と対策強化を



品川区に要望書を提出（左3番目：中塚）

2月中旬、米ユナイテッド航空事故が発生し、住宅地にエンジン部品が落下する重大な事態が発生しました。

この事故は航空機が住宅地を飛び品川区にとっても重大な問題です。

そこで2月26日、品川区議14人の連名で、品川区に対し「国に原因究明と対策強化を求める要望書」を提出しました。提出時は共産、ネット、立憲、無所属ら9人が参加しました。今後とも共同を広げ頑張ります。

なかつか亮 1975年西大井生まれ／46歳／伊藤小、富士見台中、農大一高卒／イタリア料理厨房6年／27歳初当選／区議5期／予算・決算委員会副委員長、行革特別委員会委員長を経験／党区議団幹事長／家族：妻／29号線取消裁判原告／趣味：旅行 

なかつか亮の駅前宣伝 火曜日朝7時半～大井町駅、金曜日朝7時半～西大井駅、土曜日夕方4時～大井町駅
スタッフ募集：区政報告を駅前宣伝で配付して頂ける方を探しています。少しの時間だけでも助かります。